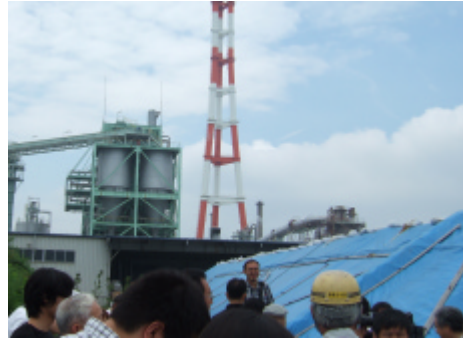


四日市・磯津の海を前にして

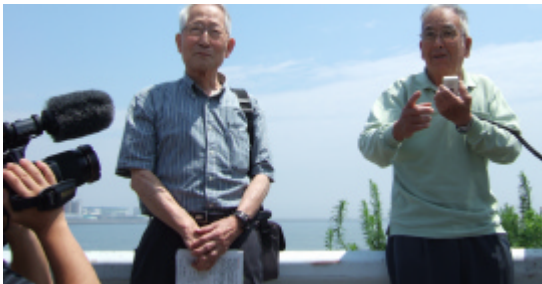
集いの翌日 22日は四日市コンビナート地帯の「現地視察」である。この日は前日と違って晴天であり、猛暑のなかでの視察となった。途中から申し込みが多くなり、バスの関係で参加を制限したほどであった。

澤井さんらの案内で、まずは石原産業に向かった。石原産業は公害裁判の被告企業の一つであるが、いま再び例のフェロシルト事件で世の中を騒がせている。工場長らの「神妙な説明」のあと、会社のマイクロバスで工場内を回った。



ビニールシートで覆われているフェロシルトなど、公害企業の現場を見ることができた。

石原産業から四日市公害の原点といえる塩浜・磯津に向かった。昨年、磯津には塩浜駅から歩いて来たことがある。今回は原告患者の一人、野田之一さんから磯津の海岸の前で話を聞くことができた。野田さんは今も喘息に悩まされながら、澤井さんと一緒に「語り部」として活動している。



野田さんは海岸の方を指差して、海は昔に比べてきれいになったように見えるが、魚はいなくなった。目の前に海があるのに、漁師は遠い鳥羽の方まで漁に行っている。市はホタルが飛ぶようになったとして、公害は終わったというが、まだ公害は終わっていないと強い調子で語った。澤井さんが磯津ではセミが鳴いていないと語ったことも、印象に残った。二人の「語り部」の言葉が忘れられない。 (2007年8月5日 記)